

JUNGI DO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人／浅田幸作
 発行所／滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所 2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日／平成26年4月20日
 編集人／広報部会・山田 勲
 印刷／株式会社 サンエムカラー

URL: http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou
 E-mail: zeze-h-dousokai@poem.ocn.ne.jp

VOL.31

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 = 高 = 2014

巻頭エッセー	1
平成26年度総会のお知らせ	1
校訓の制定について	2
国際宇宙ステーション計画と日の丸輸送船	2
膳所高校の勉力	3
膳所高等学校逍遙歌	3
石鹿文庫	3
同窓会費納入のお願い	3
周年同窓会報告	4・5
記念同窓会報告	6
同窓会事業のご案内	6
理事会よりのお願い	6
会計報告・総会提出議案・同窓会役員	7
膳所高NEWS	8

巻頭エッセー

社会の変化と高校教育

昭和38年卒(膳所高11回)
 京都大学名誉教授 増田俊夫



我々の世代が生きてきた20世紀後半の50年と現在および近い将来を含む21世紀前半の50年を比較すると大きな変化が一目瞭然である。20世紀後半の時代は世界の20%程度を占める先進国が経済規模において世界の80%程度を占めるようになって世界は21世紀に入るといわれるようになった。この傾向は21世紀を通じて長い期間続くであろうし、世界全体の発展自体は結構なことである。問題は持続可能な社会の構築である。現在高校生の諸子は21世紀末近くまで生きられるであろうが、その頃社会は予想もできないほど変化しているであろう。

日本は戦後急速な発展を遂げたが、この20年ほどはバブルの崩壊のち経済的な停滞期に入った。新興国との産業・貿易における競争、少子高齢化社会の諸問題など、将来にわたっての課題が明らかになってきた。グローバルとローカルの両視点に基づく行動、個人と社会のバランスを考えた計画が肝要と考えられる。長期的には人々の出身国に強さはこだわらず、国境の概念は益々希薄になるはずである。Darwinは「変化しうる生物が生き残る」という考えを示している。社会も常に正しい変革が必要である。もちろん朝令暮改は避けるべきである。

社会の発展にとって大学の果たす役割は非常に大きい。各国は独自の大学システムを有し、中でも米国の大学のシステムは公明正大で有能であれば外国人も含め万人に機会が開かれている。ヨーロッパや新興国の大学も米国的に近いシステムへと変革されつつある。日本の大学は法人化など改革の兆しが見られるが、人事、国際化、教育方法、研究競争力など、多くの改革すべき点がある。公立大学と私立大学では役割、特徴、運営方法などは自ずから異なるが、

米国における状況とは相当異なり改善すべき点も多い。学生の最終進路決定は学部専門課程開始時あるいは大学院入学時でも遅くはないと考えられる。

高校教育が大学の入試制度に影響されるのは否めない。しかし詰め込み教育を多少とも軽減しつつ、考える力を身につけ、自分の適性と将来の進路について考えることができる教育が望ましい。教育(education)の語源は引き出す(educare)こととはよく言われることである。日本の高校特に藩校の流れを受け継ぐ高校や有名私立高校はそれぞれ独自の優れた教育を行っておられると感じる。高校生の諸子には、むやみに偏差値に振り回されることなく自分の進みたい分野を見極めて研鑽していただきたい。たとえ壁にぶつかることがあっても、若いときの努力は決して無駄にはならないと確信する。

最後に高校時代の私的な印象を述べさせていただくと、ふたつのが強く残っている。ひとつは3年生のときの担任教官であった八耳順朗先生のことである。先生は専門の化学以外についても毎日英単語を一語ずつ黒板に示したり、生徒に岩波文庫100冊の本のどれかを読むことを勧めたり、いろいろ工夫されたことが強く印象に残っている。いまひとつは元東京帝国大学教授でジベレオンを発見された数田貞治郎博士が母校の膳所高校で講演されたことである。研究成果が高校の教科書にも記載されていることは誠に素晴らしいことである。

福井県に一時滞在した経験と述べると松平春嶽、白川静、南部陽一郎など県民の誇る多くの偉人がおられる。滋賀県も遵義堂などから黒田勉蔵などの賢人を輩出してきた。これからも、滋賀県から膳所高校から多くの偉人が輩出されることを期待する。

平成5、20年京都大学工学部教授
 平成20、25年福井工業大学教授
 平成25年 室蘭工業大学客員教授

新入会員

「膳所高生としての誇り」

平成26年3月卒業 今村大智



私たちの高校3年間は、震災からの復興の3年間でもあります。3年前、私は中学校の職員室で卒業式の答辞の練習中に、震災の速報をテレビで見ました。あれから3年。震災発生直後はテレビにおいて娯楽番組の放送を自粛していましたが、今では以前と変わらない内容の番組が放送されています。私たちが震災について思いを巡らせることも少なくなりました。しかし、いまなお、被災地では仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされている方や、収束先が見えない原発事故に苦しむ方、行方不明になったままの家族を探し続ける方など、震災が生み出した苦しみから逃れることのできていない人々がたくさんいます。

被災者の方々が、つらい3年間を送っておられる間、私たちは膳所高校で充実した3年間を送っていました。膳所高校での3年間で得られたものの中で最も大きいものは、私

は、「それは「主体性」であると思います。勉強において、部活において、湖風祭をはじめとする行事において、私たちは主体性をもって活動できる環境におかしていただけた。その主体性こそがこれからの人生において重要な力であると思います。例えば、震災関連のことについて、正しい現状を知るためには、主体的に情報を入手し、氾濫する情報の中で正しい情報を選択しなくてはなりません。その上で、復興援助のために自分ができることを主体的に行いたいと思います。

主体性とともに、持ち続けたいもの。それは、「膳所高生としての誇り」です。これから、社会に出ていくにあたり、この2つを大切にしたい。この震災が残した爪痕をはじめ、様々な問題に立ち向かっていき、世界に通用する人物になることが私の夢です。そのことを通じて、お世話になった先生方や両親、ともに高めあつた仲間、そして関わりを持たせていただいたすべての方々への恩返しをしたいです。

本年度の総会は5月18日(日)

平成26年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会の平成26年度定例総会を左記の要領により開催いたします。

周年同窓会を始め、班のOB・OG会が多数行われています。卒業後3年目の成人同窓会、関東膳所高校同窓会も軌道にのり、定着してきています。26年度の総会に同窓会員の皆様方のご出席をお願いいたします。

平成二十六年 定例総会

●日時 平成26年5月18日(日) 午前10時開会
 (午前9時30分 受付開始)

●場所 大津プリンスホテル

大津市におの浜4丁目7番7号
 電話 077(521)1111

●感謝状贈呈 本校教職10年勤務者

●議事 一、平成25年度会務報告・部会報告
 一、平成25年度会計報告・会計監査報告
 一、平成26年度事業計画、予算審議

●講演 「糖尿病とアルツハイマー病 お薬と健康について」

講師 西出 喜代治 氏
 (膳所高20回 昭和47年卒業)

〒5203233 滋賀県湖南市柑子袋9637
 TEL&FAX 07748727431

●懇親会 懇親会にご出席の方は、当日受付にて会費6,000円をいただきます。欠席の方及び異動のない方はご返信は不要です。

講師のプロフィール



昭和47年3月 膳所高等学校 卒業
 (第20回卒)
 昭和52年3月 岐阜薬科大学卒業
 (薬剤師)
 昭和57年3月 京都大学大学院 薬学研究科博士後期課程 修了(薬学博士)
 財団法人相模中央化学研究所 入所 研究員

平成 元年 米国University of Illinois at Urbana-Champaign 化学科博士研究員 (PhD.Scott, Denmark)
 平成9年4月 京都薬科大学 助教授
 平成16年4月 広島国際大学 薬学部 教授
 平成20年4月 武庫川女子大学 薬学部 教授
 現在に至る

講演の主旨

糖尿病とアルツハイマー病を題材にして、薬学の有機化学や医薬品化学の視点からお話させて頂き、疾病の治療に使われるお薬と健康について考える一つの機会にさせて頂ければ、と考えています。

校訓の制定について

膳所中学校から学制改革による新制高校（大津東高等学校）開設にわたる間、青春時代の真つただ中、母校で勉学に励まれた先輩の皆さまにおかれましては、昭和11年に定められた校訓「至誠遵義 自主力行」は、学校生活や諸行動の大きな指針となり、生活規範であったと聞いております。

その後、時の移ろいの中、母校はますます発展してきました。膳所高等学校創立百周年を前に、当時の校長の「百年の歴史を振り返り、膳所高魂とでも言うべき伝統の精神をまとめ、それを未来に向けた目標としたい」という強い希望により、新たな校訓を設けることとなりました。校内的には平成9年に「校訓制定委員会」が設置され、6月11日から8回にわたり、委員会討議がなされました。検討委員会の目標（趣旨）は、「生徒の日常の生活目標、学習目標となるものを示す・生徒の将来にわたる生き方の指針となるものを示す・伝統として引き継ぐべき本校の教育理念を示す」でした。その討議の結果、平成10（1998）年1月16日の職員会議において新校訓「遵義（じゆんぎ）—誠実な心で、真理と正義を追求し、人類の未来に貢献しよう。力行（りきよう）—自主、自立を尊び、心身を鍛え、高い理想に向かおう。」が決定されました。多くの先輩の皆さまや新校訓制定以前にご卒業された皆さまに新校訓をあらためてご紹介し、その制定の経緯を記させていただきます。

同窓会会長 浅田 幸作（昭和33年卒）

国際宇宙ステーション

計画と日の丸輸送船

小鐘 幸雄

一、初めに

本稿は膳所高校同窓会平成25年度定例総会で行った講演内容を基に、同窓会報用に編集したものである。国際宇宙ステーション（ISS）では、地上の約100万分の1の微小重力（マイクロG）、1兆分の1の高真空環境や死角の少ない視野が得られ、長期滞在する宇宙飛行士を活用できることから、宇宙の未知の可能性に挑む「宇宙のフロンティア」と位置付けられる。また、米国、日本、欧州11ヶ国、カナダ及びロシアが参加している初めての大型国際共同プロジェクトである。

ISS計画に関しては、1984年1月に、レーガン大統領より中曽根首相に対して正式に参加要請があった。同年6月のロンドンサミットでも同大統領より、

各国首脳に参加協力が直接呼びかけられた。1986年、国の宇宙開発委員会で、日本の実験棟（JEM）を開発、打ち上げることが決定され、翌年から開発が始まった。

スペースシャトルチャレンジャー号、コロンビア号の事故、ソ連の崩壊でロシアが参加をしたことなどにより、打ち上げ時期や最終形態は順次見直されてきたが、2007年のロシアのサーヴィスモジュールから組み立てが始まり、2011年に完成した。

二、国際宇宙ステーションとは

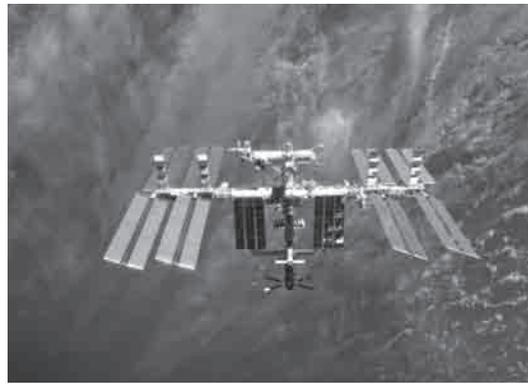


図1. ISSの最新コンギギュレーション

図1にISSの外観を示す。中央にトラス構造を有し、両端に8枚の大型太陽電池パネル、中央に放熱板が取り付けられている。ほぼサッカーコート程度の大きさがあり、重さは約420トン、圧空間容積は約1000m³でジャンボジェット機の1.5倍である。

紙面上方に飛行しており、進行方向に向かって左にJEM、右に欧州モジュール、その後ろに米国モジュール、最後にロシアモジュールが結合されている。また、カナダによって開発された大型ロボットアームが、トラスに取り付けられており、各国には、それぞれ貢献割合が決まっており、逆に、その割合で、電力や宇宙飛行士の労働時間などのリソースが利用できる。日本はちなみに12・8%の利用権を有している。

ISSは高度約400kmを約1時間半で地球を1周している。モジュール間は共通の結合機構をもち、建て増しが可能である。常時6名の宇宙飛行士が滞在している。昨年の11月7日からは若田宇宙飛行士が滞在しており、3月からは船長を務めている



図2. ISS搭乗中の若田宇宙飛行士

（図2）。今後、日本は引き続き、1年に約半年、1名の割合で宇宙飛行士を搭乗させる予定である。

三、きぼう（JEMの愛称）

日本が開発した「きぼう」は国内企業の総力を集めて開発された日本の実験棟であり、当初計画より10年以上遅れて2009年に組み立てが完了した。

きぼうは、1気圧に与圧された空気が満たされた円筒形の船内実験室を中心として、宇宙空間に直接曝露された環境で実験ができる箱型の船外実験プラットフォーム、船外の実験を支援するロボットアーム、与圧実験用の資材などを保管する船内保管室が取り付けられている（図3）。船外実験プラットフォームには、曝露実験に用いる実験装置や、ステーション用の蓄電池や姿勢制御用のジャイロなどを運搬するパレットが装着可能である。また、きぼうにはデータ中継衛星を経由して実験データなどをつくばに直接送信する衛星間通信システムや船内実験室と曝露空間に物の出入りができるエアロックを装備している。

船内実験室には、細胞や微生物、小型植物を培養できる細胞培養装置、流体物理のための流体実験ラック、創薬開発等のための蛋白結晶生成装置、半導体材料等の実験のための温度勾配炉やメダカなどの水生動物実験装置が据え付けられて生命科学、宇宙医学、物質、材料分野等の実験に利用されている。

曝露実験と

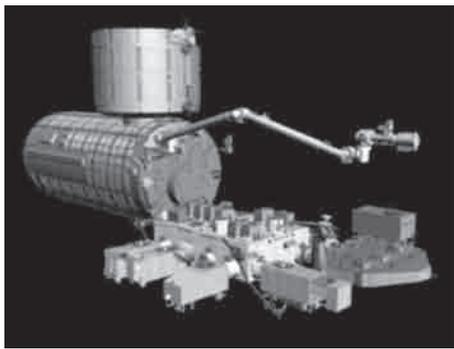


図3. きぼう

としては、宇宙線や宇宙微小粒子による材料劣化や、地球外物資の捕獲実験、オゾン層などの大気観測実験、将来のロボット技術実験、全天のX線による観測が行われており、世界最高レベルの成果を得ている。

四、日の丸輸送船（愛称こうのとり）

こののとりは日本が開発した、ISSへ貨物を運ぶ無人の大型輸送船で観光バスほどの大きさがある（図4）。与圧用物資と曝露用物資合わせて6トン輸送可能で、全備重量は16・5トン、小型自動車10台分になる。トラックの荷台にあたる補給キャリアと与圧部、補給キャリア非与圧部、および頭脳とエンジンにあたる、電気モジュール、推進モジュールからなる。非与圧キャリアには引き出し状のパレットが装着されておりその上に実験機器やシステム維持機器が搭載されている。表面はリチウムイオンを材料とする太陽電池パネルに覆われており、姿勢制御用の小さいロケットエンジン（推力120ニュートン）が28基、最後部には軌道変

更用のエンジン（400ニュートン）が4基装備されている。ヒドランジ系燃料と酸化窒素系の酸化剤が用いられている。

こののとりは日本で最もパワフルなH2Bロケットで種子島宇宙センターから打ち上げられ、2段階ロケットから切り離されたあとは、自律的にISSに近づいていく。通信は米国のデータ中継衛星を、航法は米国のGPS衛星を利用してはいる。残念なことに、日本の宇宙開発はこれらの衛星なしでは実施できないのが現実である。最終的に、時速約2万7千kmで飛行するISSの下方10mで相対停止しISSのロボットアームで把持されて前面下部に係留される。

物資の移送後は廃棄物が搬入されて、ISSから離脱後、南太平洋上の大気圏に再突入してほぼ燃え尽き、ミッションを終える。今後年に約1機、7号機まで打ち上げられる。

こののとりはスペースシャトル退役後、大型荷物を運べる唯一の輸送船でISSの運用に不可欠な存在となっている。

五、終わりに

日本の宇宙開発では、通信途絶、姿勢制御不能などの度重なる困難を克服して、小惑星「いとかわ」からサンブルを持ち帰り、太陽系誕生過程の解明に期待がかかる「はやぶさ」やインテリジェントな固体ロケット「イプシロン」に見られるように世界の先頭を走っている分野もあるが、有人宇宙分野は国の財政事情から、足踏みしており、今や、中国に追い越され、後ろにインドの足音も聞こえるようになったが、研究開発現場では、ゴーサインが出れば走り出せる準備は確実に行っている。

なお、近年、月や惑星探査計画が国際共同で検討されている。日本も積極的に貢献すべきである。宇宙開発は100%税金で賄われている国の事業である。皆さんの心強いご支援をお願いしたい。

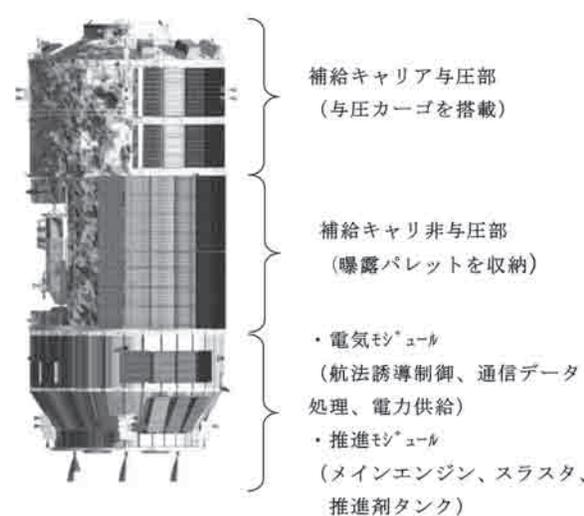


図4. こののとり

補給キャリアと与圧部
（与圧カーゴを搭載）

補給キャリア非与圧部
（曝露パレットを収納）

- ・電気モジュール
（航法誘導制御、通信データ処理、電力供給）
- ・推進モジュール
（メインエンジン、スラスター、推進剤タンク）

周年同窓会



70周年(本丸会)記念同窓会

(膳所中16回 昭和18年卒業)

私ども旧中41回(昭和18年3月卒)では、毎年1回同窓会(本丸会と呼称)を開催してまいりましたが、本年は卒業後70周年を、更に加えて「米寿」を迎えたことなどから、これを契機に解散することになり、最後の同窓会として、去る平成25年11月17日(日)に実施いたしました。



例年の同窓会と異なり、最後だということからイベントとして「母校の新校舎参観」を企画いたしました。当日、午前10時から1時間30分にわたり、瀧田校長先生からご説明と構内(第2グラウンドを含む)のご案内いただきました。紙上を借りまして厚く御礼を申し上げます。素晴らしい新校舎の設備と学習内容に驚嘆しました。正午から席を瀧田川河畔の「あみ定」へ移動し、懇親会を開催いたしました。話題は、午前中に参観した新校舎や授業のこと物故者となられた同期生の追想(既に卒業生の約67%が逝去)や戦時下の軍事教練(饗庭野演習場における敵舎訓練)の思い出などでした。午後3時に別れを惜しみつつ解散いたしました。(飯田勝一)

60周年記念同窓会

(大津東高1回 昭和28年卒業)

私達は昭和一期の最後から二期に生まれました。国民学校入学一年生、新制中学一期生、そして大津東高校第一期卒業生という「第一期」の肩書きを幾つも持っています。まさに戦後派第一期生の存在と自負しています。大津高校に入学し、大津東高校を卒業、そして膳所高校のOBで校歌を幾つも知っています。顧みず昭和から平成にかけて約80年、戦争に巻き込まれたり、戦後復興の激流の波にのみこまれながら無事生き抜いて「傘寿」にたどり着きました。今回は卒業60周年同窓会でしたが、よくここまで生き抜いてきたとお互いの健闘を褒め称える「傘寿を祝う会」でもありまし

た。将に元氣確認の会でした。

会場の琵琶湖ホテルには懐かしい顔と顔、聞き覚えのある声、少しも変わらぬ立ち振る舞いなどに接し、楽しいひと時を過ごすことができました。535名卒業、369名に案内を出し、130名の出席とは成績優秀で、幹事の皆さんの努力の賜物でした。

ただ残念なことには来賓として当時の恩師の方々を誰もお迎えできなかったことです。「喜寿の集い」の時には皆で江州音頭を踊るという企画がありました。もうそれ程の気力もなく、お互いに盃を揚げ、昔のことを語り明かすだけで十分でした。今回も私達みんなで歌を歌って同窓会を盛り上げることになりました。東日本大震災の支援歌「花は咲く」を歌ってお互いの絆や結びつきを確かめたことは有意義でした。誰もが故郷として思い浮かべるのは「比叡山」と「琵琶湖」であり、「琵琶湖周航の歌」で会合を締めくくったことも「今日の日はさようなら」でいつまでも友達でいたいよと誓い合ったことも印象的でした。青春時代に戻った一日でした。



東京オリンピックまで7年、米寿まであと8年。全体の同窓会は幕を閉じても、機会あることに集まって語り明かそうと確かめ合いました。感謝と喜びの一日でした。(高野明)

55周年(膳六会)記念同窓会

(膳所高6回 昭和33年卒業)

昨年6月16日に、膳六会55周年記念同窓会をホテルボストンプラザ草津にて開催しました。当日は、梅雨時期にもかかわらず前日の雨も上がり快晴に恵まれた日になり、遠路から参加頂いた皆様に喜んでいただきました。

今回の幹事は、当時通学で草津線を利用して卒業生を中心に代表幹事会を結成、クラス幹事の協力を得て当日を迎えることができました。式典には、恩師村田辰夫先生、山本利達先生にご臨席賜り、お元氣な姿を拝見させていただきました。卒業して、年も経つと亡くなった恩師や卒業生も多く、また体調不良等でご参加が叶わなかった方々もおられる中、北は福島県から震災で自身も罹災された方や西は宮崎県からと103名の卒業生が駆けつけていただき、再会を喜ぶ声があちらこちらで上がっていました。式典では、恩師ご入場に始まり校歌斉唱、物故者追悼、開会挨拶など無事終え懇親会に移りました。懇親会では

恩師お二人よりお言葉を賜り、参加者ス

ピーチでは各クラス代表が近況など楽しく語っていただきました。最後に「琵琶湖周航の歌」を中村貞子さんの指揮で全員が元氣よく合唱して閉会。

二次会は同ホテルにて引き続き開催。参加の100名が今度は友達同士テーブルを囲み久しぶりの歓談に時間を忘れ大いに盛り上がりたいただきました。

いま日本は東日本の復興遅れ、原発問題、戦争の悪夢を子孫に負わしかねない特別秘密保護法採決に加え、消費税の増税、年金の引き下げと、高齢者の生活を脅かす話題ばかりで「次回は元氣に逢いましょう」の締めくくりに挨拶をより痛感しました。

最後に膳所高等学校同窓会より55周年記念のお祝いを戴きましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(國松昭)



50周年記念同窓会

(膳所高11回 昭和38年卒業)

昨年11月9日「古稀を元氣に・楽しく祝おう」のスロークホテルに於いて123名の参加者を得て賑やかに開催された。今回同窓会は残念ながら9名の恩師の先生方と63名の同窓生が既に他界されていましたが、50年目にして初参加の友を交え、過ぎし日の青春の思い出、そして今は亡き友への鎮魂の思いを込めての思い出話で和やかになりました。

「紙上(誌上)」を飾った人々」と題して同級生の活躍を紹介する催しとして、まず今回ご出席が叶わなかった、パイプオルガン再生工房の嶋村健治君、ガラス絵作家の丸山(藤谷)柚美さん、お二人の紹介。続いて、ニュー



スポーツ「ディスプレイ」の県協会代表の平野十九歳君、知的障害者の働ける場所として野菜の水耕栽培施設運営の敷田喜山君、廃業寸前の「笑四季」酒造の再興を果された竹嶋(長)健三君、草津市にて滋賀県初の女性副市長として市政に携われた山岡晶子さん、世界のロケットクリエーター高橋智隆氏の生みの親・育ての親の高橋(野口)泰子さん、の5名の方々にビデオ紹介の後壇上にてインタビュー。それぞれの苦労話や裏話などをお話いただき、出席者一同の大きな励みとなりました。

今記念同窓会に初めて参加の皆さん、大型スクリーンに映し出された入学当時の学び舎、教室の写真、現在の学校の写真、50周年記念琵琶湖一周駅伝のビデオを見ながら、最初は顔と名前が一致せず戸惑いながらも飲むほどに酔うほどに次第に打ち解け談笑の輪が広がった。古稀を元氣に・楽しく祝おう。50歳記念同窓会、開会前奥田英山君による歓迎の呈茶、記念写真の撮影、小笠原勇君の開会の挨拶、今は亡き先生方、同窓生の御冥福を祈り黙祷を捧げた後西家(中山)桃代さんのピアノ伴奏で校歌斉唱を皮切りに始まった同窓会。あつと言つ間に4時間が過ぎ中締めとなり、ほぼ全員二次会の席へと移動した。

45周年記念同窓会

(膳所高16回 昭和43年卒業)

去る2013年6月29日、卒業45周年記念の同窓会を琵琶湖ホテルにて開催しました。多くの恩師の方にご列席を頂き、92名の同窓生が集まりました。2008年の40周年記念同窓会から早や5年、我々も今や63、4歳すでに退職した人、再雇用などで仕事を持っている人、まだまだ現役の人など多種多様。4時集合なのに、昼頃からホテルに来て仲間を探し出し喫茶店でおしゃべりを始めるの早い人、趣味や特技をとうとうと語る元氣な人、例によって医者以上に健康や病気を講釈する人、孫の自慢話を得意気にしゃべるじいちゃん・ばあちゃんなど、今回は以前とは少し違った雰囲気になりました。物故者29名の黙とうに始まり、呼びかけ人と来賓の先生の挨拶、乾杯の後、にぎやかに会が始まりました。美味しい料理やお酒もそっこのけで話が盛り上がり、唯一のプログラム、クラスごとに壇上に集まり近況を話す頃には、みんなすっかり当時の18歳にタイムスリップ。あつという間の2時間半でした。その後二次会にまだ残りましたが、意欲外だったのは、カラオケに人が集まらず、ほとんどの人がホテルのBAR「桃山」でカクテル片手に静かに会の余韻を味わったことでした。皆さ



ん本当にご苦勞様（・・・）でした。今回は5年後の開催（50周年）とし、元気な姿で再会する事を約束してお開きしました。今後、より多くの人に参加して頂けるよう、携帯電話やメールアドレスを含めた名簿の充実、ホームページの立ち上げなどを積極的に進めてお互いの情報を共有できるようにすること、何よりもこれから5年間の健康管理とボケ防止に努めたいと思っています。なお、更に名簿を充実するため、同窓生の方々（特に今回欠席の方）、是非、前川までメールを送ってください。アドレスは maekawa2026@gmail.com へ。ご協力をよろしくお願ひします。

（次回幹事 前川忠嗣）

35周年記念同窓会

（膳所高26回 昭和53年卒業）

平成25年8月10日ロイヤルオークホテルにて35周年同窓会を開催しました。浅田同窓会会長、恩師の先生方7名、同級生119名が参加、卒業以来5回目前回は5年ぶりの同窓会になりました。大変暑い日になりましたが早めに参集していただき受付開始前から久々の再会に歓声が上がりが話の輪が広がっていました。

写真撮影、物故者への黙祷、開会、浅田同窓会会長の挨拶、西岡先生のご発声による乾杯と進み食事と歓談が始まりました。長い年月の経過とともにすっかり風貌が変わっていたり、450名も在籍していたので在学中に付き合っていない人もいたり、また35周年で初参加という同級生もいるので先生方も同級生も順にクラスごとにステージに上がり全員が一言ずつ近況報告や懐かしい高校時代の話をして大いに盛り上がりしました。最後に校歌を歌って盛会のうちにお開きとなりましたが名残惜しく同ホテル内での

二次会には79名が参加、三次会には23名が参加して日がかわる頃まで旧交を温めました。

また翌日には幹事の有志による企画として栗東市のジャパンエースゴルフ倶楽部にてゴルフコンペを開催しました。男性ばかり15名が参加してアルコールが抜けきらない中、前日に続く猛暑で熱中症を心配しましたが無事に終了しました。今まで交流がなかったメンバーもいました。宴会は一味違う発見もあり楽しいコンペでした。今後不定期に続けていくことになりました。今月11月に開催しました。今後参加希望の同級生は幹事までご連絡ください。



また同窓会をきっかけに班や有志での集まりもいくつか開催されたと聞いております。繋がりが広がって次回同窓会ではさらに多くの同級生にお会いしたいと考えております。次回同窓会は5年後、卒業40周年の予定をしておりますが還暦を迎える少し前となります。無理のきかない年齢になりつつありますが元気に笑顔で再会できることを願っております。

（秋山洋子）

25周年記念同窓会

（膳所高36回 昭和63年卒業）

「犬を連れて散歩をしていると、いつも近寄って来て犬としゃべり合っている小学生がいる。犬の名前を聞くのでポチだと教えてやり、「君はあのマンシヨンの子か？」と尋ねると、ギョロッとこちらを睨み、「家が何処か教えちゃダメだと言われている」と。おまけに「このおじさん危ない人だ」と言って走り去っていく始末。絆という言葉は昔からあったが、今みたいに取立てて使うことはなかった。このような時代だからこそやって大勢の同窓生が一堂に会することは素晴らしい。これからもこの繋がりを大事にしていって下さい。ご来賓を代表して当時の学年主任・向井了暢先生がお話くださった挨拶の一節です。お言葉通りに、絆を深めることができた同窓会だったように思います。

平成26年正月4日、青空広がる琵琶湖畔のホテルで昭和63年3月卒業生の25周年記念同窓会を開催しました。同級生117名に、恩師9名をお迎えして賑やかな宴となりました。全員で記念写真を撮ったあと、司会の伊藤美樹子さんが元気な声で開会宣言、校歌斉唱の後、物故者に黙祷を捧げ、先述の向井先生のご挨拶を戴きました。田中彰君が編集してくれた懐かしい映像を観ているうちに、会場内は25年前にトリップ。ラグビー班が県大会決勝戦で八幡工を破り、花園出場を決めたシーンが映し出されると大きな拍手が沸き起こりました。ピフォア・アフター風に5年前の同窓会写真が映し出されると若々しい高校時代から現実に戻り、苦笑が漏れました。三好克美くん、山岡雅佳さんも加わった3人の小気味よい進行で終始和やかな雰囲気。めでたく還暦を迎えられた富波義明先生の乾杯のご発声のあとは思い思いに歓談。B0版に拡大した卒業アルバムや写真の前では大小様々な話の輪ができました。藤井敏先生、今西直隆先生、藤本志郎先生、池田修先生、山田啓子先生、川端（旧姓池田）元子先生、山崎敬先生からお言葉を頂戴した



あとは、クラス毎、班毎、出身中学毎とあちこちで集合写真。正午に開演してアツと言う間の3時間。舟橋秀晃君はじめ今回の世話役が登壇して挨拶し、最後は全員で肩を組んで輪になり、恒例の琵琶湖周航祝賀を締めました。その後も2次会、3次会と懐かしい話は尽きず夜が更けていったようです。次回30周年は平成30年11月24日（日）、ご予定ください。

（村木康弘）

20周年記念同窓会

（膳所高41回 平成5年卒業）

琵琶湖の湖に初春の澄んだ日の光が映える平成26年1月3日午後1時、平成5年卒業生144名と恩師9名が琵琶湖ホテル瑠璃の間に集い、10年ぶりの同窓会が開かれました。

20年ぶりに再会する人も多く、ロビーから受付を経て会場に至るまでの各所で、歓声とも悲鳴ともつかぬ盛り上がりが見られ、前座が温めるまでもなく準備万端、いざ開宴！

成田政隆君司会の下、生徒会長河本大輔君の開会宣言に始まり、恩師紹介、膳所高名物イサク（坂口）先生の乾杯御発声の後、歓談へ。と同時に、ここまで着席していた皆さん、縦横無尽に動き回り喋る喋る：会場のあちらこちらに笑顔が溢れました。

歓談のBGMは当時のヒット曲集。途中、城戸知美さん作成・当時の写真のスライドショーを流し、会場には卒業アルバムや嶋瀬先生御持参の当時の学級日誌等を展示、また、欠席者からのメッセージも掲示しました。

当然、皆38歳か39歳になっているわけですが、20年前、化粧の仕方も知らなかった女子は麗しい淑女に変貌、一方の男子も、平均して横に1.5倍ほど見事に変貌を遂げて、むしろ当時の体型を維持している人が体調を心配される始末。お互いの変貌にツッコんだり、ときめいたりしているうちに矢のように時は過ぎ...

恩師の先生方が壇上に並ばれると、コーナー司会の野球部4番・福田一寛君と5番・居川大輔君のコンビに話す隙も与えぬほど、先生方が喋る喋る！懐かしい思い出話を繰々披露されました。

楽しい時はあっという間。恩師に記念品贈呈の後、全員で校歌斉唱！代表世話人の小野寺渉君の中締め挨拶の後、



集合写真を撮影し、お開き：のはずが、3時間半では話し足りなかつたか、約80名が松下博文君のお店「なぎさW.A.R.M.S.」での二次会に向かったのです。この日の楽しさ・嬉しさはともかくここでは書ききれないので、特に出席できなかった皆さん、facebookのグループページ「膳所高41回「93卒」」にアクセスしてくださいね。

（糸井良太）

※文中に名前の記載のない世話人（全て旧姓・敬称略）井門桜子、市田善彦、上田純平、松田浩子、山本一美

5周年記念同窓会

（膳所高57回 平成21年卒業）

2014年1月4日、グラントプリンスホテル東京都において、卒業5周年記念同窓会を開催しました。お正月という多忙な時期にも関わらず、240名を超える出席者が集まり、10名の恩師の方々にもご臨席いただきました。

開会前からロビーでは友達や恩師との久々の再会を喜び、笑い声と笑顔が溢れており、成人式の同窓会からはや3年の月日が経ったというのが嘘のように、皆、顔を合わせるやいなや和気藹々と会話に花を咲かせていました。

当時学年主任を務めておられた仁科守博先生に乾杯のご挨拶をいただき、その後、歓談へと移りました。学生生活を送る者、就職活動に励む者、社会人生活1年目をスタートさせた者等、今回の同窓会では皆の立場が様々であり、互いに近況報告をし合い、情報交換をし合い、話が尽きることはありませんでした。また、仁科守博先生、村田厚子先生がご退職されるということで、壇上にてお花のプレゼントをさせていただきました。先生方に喜んでいただくことができ、幹事一同嬉しく思っております。その後、お楽しみ抽選会を行い、あっという間に閉会の挨拶の時間となりました。

次は5年後、卒業10周年同窓会を予定しております。文武両道をモットーに、何事においても努力することを忘れない膳所高生は、これからもずっとお互いに良い刺激をし合える存在であると思えます。次の会では、皆とどのような話ができるのだろうかといふこと今から楽しみです。

最後になりましたが、今回の同窓会の準備・運営に携わってくださった全ての方々、沢山の我儘を聞いてくださったホテルの担当者様方に心からお礼を申し上げます。

（中澤愛実）



記念同窓会



膳中三九会

(膳所中39回 昭和16年卒業)

學而時習之、
不亦説乎、
有朋自遠方來、
不亦樂乎、

お互いに卒寿を迎える
「朋遠方より来る有り」
の心が、膳中時代には感じ
取れなかったのに、この作
者の真髓にまで触れられる
ようになってきた。

10月28日 三九会の定例
会場(ホテルプライトンシ
ティ京都山科)へ松江から
の出席者があり歓喜に満ち
あふれていた。

四方山話に華が咲き、時の経つのも忘れていたので、
終了予定時刻も過ぎてしまった。
「草生す城は…」の校歌を高らかに斉唱して尚齒会の閉
幕となった。

(谷・長谷川)

成人式同窓会

(膳所高60回 平成24年卒業)

新年が明けて早々の1月13日、私ども平成23年度卒業
生が成人の節目を迎えるに際し、大津プリンスホテル「プ
リンズホール」にて、同窓会を開催いたしました。当日は、
飛び入りの参加もあって、予想を上回る約370名の同
窓が集まりました。また、恩師の先生方も大変多忙の折、
10名の方がご出席くださいました。冒頭では先生方にお
言葉を賜り、私たちは懐かしきとともに、自らを鼓舞す
る思いを感じ得ました。また、乾杯の音頭に始まった飲
談の時間は、美味しい料理にも彩られ、大変な盛り上が
りを見せる楽しいひと時となりました。

卒業からまだ2年しか経っていませんが、夢に向かっ
てそれぞれの道を全力で駆け抜ける同窓たちの姿は各々
にとって大きな刺激となり、本会は今後の人生の糧とな
る大変意義のある思い出となったように感じます。これ
ほどまで大勢の同窓が一挙に会える機会には、おそらく今
回が最後になるのではないかと思います。今後私ども
も同窓生は、生涯の仲間として互いに刺激し合い、支え
合いながら交流を続けていくものと確信しております。



最後になりましたが、
このたび成人を迎えるに
あたり、私たちは、我が
国と国際社会の将来を
担っていく者の一員とし
ての責任を強く認識し、
膳所高校卒業生として「遵
義・力行」の精神を胸に、
強く誠実に生きていくこ
とを決意いたします。並
びに、本会を開催するに
あたり、お力添えをい
ただきました。同窓会事
務局の皆様、恩師の先生
方、そしてプリンスホテ
ルの皆様に心から感謝申
し上げて、同窓会の報告
を終えさせていただきます。

(幹事会代表 篠崎 陽)



第13回柔道部同窓会

第13回柔道部同窓会を開催
いたしました。20数年前に膳所高
校で長く顧問をされていた山本
敬三先生の呼びかけで始まり、
1年半から2年半ごとに細々と
行ってきました。もう13回目と
なります。お盆とお正月のどち
らかに開くのですが、今年は1
月4日(土曜日)にあたか飯店
(浜大津)で開き、35名の参加
がありました。卒業生は、全国
どころか海外で活躍されている
方も多く、参加者も77歳の先
輩から40歳の若手(?)まで、
普段のお仕事も様々です。それ
でも柔道の話題になると気持ち
は皆さん一つ、昔の稽古の思い
出話には本当に盛り上がりまし
た。(皆さんお話が上手、柔道が大好きです。)



今回目の試みとして、午前中膳所高校の新道場で寒稽
古を行いました。約半数が寒稽古にも参加され汗を流し
ました。皆さんやる気満々、開始予定時間30分以上前
には柔道着を着て待っておられたり、
30年ぶりに柔道着を着る方も...
現役部員は3人ですが、先輩の熱
烈な指導に圧倒された様子でした。
稽古終了後には新しい校舎等も見
学していただき喜んでいただきました。
柔道って意外と年齢に関係
なく楽しめるスポーツ(と参加の
皆さんおっしゃいます)ですが、
けががなく無事、稽古が終了した
ことを何より幸せに思います。次



周年記念同窓会 予告

はもつと若手にも参加していただき、さらに盛り上げた
いと考えています。現役生にも頑張ってもらい、ますま
す膳所高校道班が発展することを願います。
(幹事 山田喜明)

喜寿記念同窓会

(大津東高4回 昭和31年卒業)

日時 平成26年10月13日(月・祝)
午前10時30分受付
場所 琵琶湖ホテル(瑞璃の間)
会費 11,000円
連絡先 東四会会長 椿 鐵夫
(077・534・5512)
※詳細については8月中旬にご案内いたします。

東二会60周年記念・祝傘寿同窓会

(大津東高2回 昭和29年卒業)

日時 平成26年11月9日(日) 午前11時〜午後3時
場所 大津プリンスホテル
会費 10,000円(予定)
テーマ 現役高校生との交流(吹奏楽班の演奏を中心に)
連絡先 蒲生 容仁(077・5223・2435)
※詳細は、9月にご案内致します。同時に、今後の
東二会運営に関するアンケートをお願いする予定です。

50周年記念同窓会

(膳所高12回 昭和39年卒業)

日時 平成26年7月13日(日)
午後12時受付
場所 琵琶湖ホテル(瑞璃の間)
連絡先 紫山 茂(090・8366・4001)
※詳細については別途ご案内いたします。

45周年記念同窓会

(膳所高17回 昭和44年卒業)

日時 平成26年8月16日(土)
午後15時予定
場所 ホテルグランヴィア京都
転居等のご連絡は、左記へお願いします。
〒52010815 大津市膳所2161-9
じく行政書士・社会保険労務士事務所内
昭和44年同窓会 世話人代表 笠 正人
FAX 077・525・1547
※詳細案内状は、6月中にお送りします。

35周年記念同窓会

(膳所高10回 昭和54年卒業)

日時 平成26年5月3日(土)
午後12時より
場所 琵琶湖ホテル
会費 10,000円
連絡先 幹事代表 大田伊久雄
(077・592・3077)
※当日午前中、膳所高校にて恩師を招いたイベントを計画
しています。同窓会の詳細については別途ご案内いたし
ます。

30周年記念同窓会

(膳所高32回 昭和59年卒業)

日時 平成27年1月2日(金)
午後12時
場所 ホテルボストンプラザ卓津

代表幹事 川上宏智
連絡先 中山 雅文(077・543・9858)
※詳細については夏頃に案内いたします。

10周年記念同窓会

(膳所高53回 平成17年卒業)

日時 平成27年1月2日(金)
場所 ホテルグランヴィア京都(丁JR京都駅直結)
平成17年同窓会理事
※詳細については後日改めてご連絡いたします。

新成人記念同窓会

(膳所高61回 平成25年卒業)

日時 平成27年1月12日(月・祝)
場所 大津プリンスホテル
連絡先 国松 拓実(090・8163・7067)
※詳細については別途ご案内いたします。

関東膳所高校同窓会

日時 平成26年5月31日(月)
会場 日本プレスセンター(日比谷)
幹事 長谷川紘之(平成7年卒)
その他 同窓会案内状を同窓会名簿掲載の関東在住者に
ご送付しました。
案内状が届かない方でご送付希望の方は、
同窓会事務局(077・524・4295)
までご連絡下さい。

膳所高校吹奏楽班OB演奏会

日時 平成27年2月15日(日)
場所 大津市民会館

遵義堂VOL.30で卓球同友会の記事に誤りがありま
した。以下のとおり訂正してお詫び申し上げます。
住友生命の藤井寛子選手とあるは日本生命の藤井寛子
選手のまちがいでした。

同窓会事業のご案内

◆第19回(平成26年度)ゴルフコンパ

・と き 平成25年9月15日(月・祝)
・と ころ メイブルヒルズゴルフクラブ
甲賀市信楽町田代65
TEL 074818213800
・スタート時間 8時00分アウト・イン同時スタート
申込マッ切後各自あて集合時間及び組み合わせ表
を追って通知します。
・競技方法 ダブルベリア方式による18ホールストロークプレー
・当日会費 18,000円(予定)
但しメンバー・シニアは別料金
・募集人数 30組 120名
・定員に達し次第第X切とします。

同窓会事務局からのお願い

3月29日の25年度同窓会理事会において、26年度の
事業計画の中で、今後の地域・職域の組織づくり、各クラ
ブOB会の結成・充実の支援について要望があり同窓会
ではお手伝いさせていただく事になりました。各地域・職域
やOB会で活動されておられる方は事務局までご連絡下さ
い。

平成25年度同窓会会計報告・平成26年度同窓会総会提出議案

◆平成25年度 同窓会会務報告

2013年(平成25年)

- 4月 22日 同窓会会計監査
22日 JUNGIDO第30号発行(琵琶湖ホテル) 145名参加
- 5月 19日 平成25年度同窓会総会(琵琶湖ホテル) 44名参加
19日 膳所高第19回(昭和46年)卒還暦同窓会 44名参加
- 6月 13日 クッキングセミナー 大津プリンスホテル 5名参加
16日 膳所高第6回(昭和33年)卒55周年記念同窓会 ポストプラザ草津103名参加
18日 膳所高第3回(昭和30年)卒喜寿同窓会 ホテルグランピア京都 93名参加
18日 陸友会総会 滋賀ビルかすが 40名参加
- 25日~26日 大第1回(昭25年)卒 京都旅行同窓会 大徳寺一久 19名参加
29日 歓送迎会 あみ定
29日 膳所高第16回(昭和43年)卒45周年記念同窓会 大津プリンスホテル 92名参加
- 8月 10日 膳所高第26回(昭和53年)卒35周年記念同窓会 ロイヤルオークホテル 126名参加
- 9月 16日 第18回ゴルフコンペ(メイプルヒルズゴルフ倶楽部) 台風18号のため中止
- 10月 15日 役員会 事務局
23日 膳中第43回(昭20中④)卒同窓会 レストラン ティファニー 30名参加
28日 膳中第16回(昭和16年)卒三九会卒寿同窓会 ホテルブライTONシティ京都山科 9名参加
31日 大津東高第1回(昭和28年)卒60周年記念同窓会 琵琶湖ホテル 135名参加
- 11月 9日 膳所高第11回(昭和38年)卒50周年記念同窓会 ロイヤルオークホテル 123名参加
9日 膳所高第7回(昭和34年)卒同窓会 琵琶湖ホテル 62名参加

- 11月 17日 膳中第41回(昭18中)卒70周年記念同窓会 あみ定 13名参加
20日 大津東高第2回(昭和29年)卒 同窓会 ホテルピアザ淡海 83名参加

2014年(平成26年)

- 1月 3日 膳所高第41回(平成5年)卒20周年記念同窓会 琵琶湖ホテル 153名参加
4日 膳所高第36回(昭和63年)卒25周年記念同窓会 琵琶湖ホテル 126名参加
4日 膳所高第57回(平成21年)卒5周年記念同窓会 京都プリンスホテル250名参加
4日 柔道部 同窓会 あたか飯店大津 35名参加
12日 同窓会広報部会(第1回) JUNGIDO第31号編集会議
13日 膳所高第60回(平成24年)卒 成人式記念同窓会 プリンスホテル 370名参加
- 2月 20日 同窓会役員会 あみ定
28日 同窓会入会式 435名
- 3月 1日 第61回膳所高等学校卒業式(平成25年度)
5日 膳所高第8回(昭和35年)卒同窓会 三五会 アヤハレークサイドホテル 90名参加
8日 同窓会広報部会(第2回) JUNGIDO第31号編集会議
22日 同窓会広報部会(第3回) JUNGIDO第31号編集会議
29日 同窓会理事会(アヤハレークサイドホテル) 95名参加
29日 同窓会広報部会(第4回) JUNGIDO第31号編集会議
31日 同窓会平成25年度 会計閉鎖
- 4月 5日 同窓会広報部会(第5回) JUNGIDO第31号最終校正

◆平成25年度 同窓会会計報告(H25.4.1~H25.2.28)

一般会計 《収入の部》

項目	予算額	決算額	差額	備考
前年度繰越金	565,024	565,024	0	
前受会費(25年度分)	3,948,000	4,054,000	△ 106,000	会費会計より振替
平成25年度会費	4,100,000	3,786,000	314,000	会費会計より振替
同窓会入会金	1,300,000	1,305,000	△ 5,000	
特別(名簿)会計より繰入	1,000,000	1,000,000	0	
雑収入	100,000	55,432	44,568	受取利息、タッグソール代等
合計	11,013,024	10,765,456	247,568	

(単位 円)

会費会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前受会費繰越金	10,383,000	24年度の前受金
平成25年度会費	3,786,000	当年度分
平成25年度前受会費	3,812,000	26年以降の会費
合計	17,981,000	

《支出の部》

項目	金額	備考
平成25年度会費	3,786,000	当年度分の会費
前受会費25年度分	4,054,000	24年度迄の前受金から
合計	7,840,000	

差引現在残高 10,141,000(17,981,000-7,840,000)
(次年度へ繰り越し)

一般及び会費会計現在残高 11,836,674
一般会計現在残高 1,695,674 + 会費会計現在残高 10,141,000 = 11,836,674

名簿会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	6,056,283	
名簿売上金	2,069,850	
利息	1,216	
合計	8,127,349	

《支出の部》

項目	金額	備考
残高証明手数料	315	
一般会計へ振替	1,000,000	
合計	1,000,315	

差引現在残高 7,127,034 (次年度へ繰り越し)

◆平成26年度 予算(案)

一般会計 《収入の部》 (H26.2.28現在)

項目	H26年度予算案	H25年度予算	備考
前年度繰越金	1,093,493	565,024	
前受会費	4,023,000	3,948,000	
当年度会費	3,786,000	4,100,000	
同窓会入会金	1,300,000	1,300,000	新規同窓会入会
特別会計より繰り入れ	1,000,000	1,000,000	経理部・増設部一貫会計繰り入れ
雑収入	100,000	100,000	受取利息、タッグソール代
合計	11,302,493	11,013,024	

《支出の部》

項目	H26年度予算案	H25年度予算	備考
総会費	720,000	720,000	平成26年度(毎年5月第3日曜日)
会議費	200,000	200,000	理事会、役員会
交際費	50,000	50,000	
通信費	650,000	650,000	総会・理事会ほか、会費収取他
旅費交通費	100,000	100,000	役員会、関東同窓会出席他
支払手数料	250,000	250,000	会費納入、振込手数料
雑給与	1,300,000	1,300,000	事務局職員費
コンピューター関係費	70,000	70,000	機器メンテナンス
ホームページ運用費	150,000	150,000	ホームページ更新他
事務用品費	120,000	120,000	封筒、コピー用紙他
備品・消耗品費	260,000	160,000	コピーチャージ料 トナー他
広報発行費	924,000	870,000	[JUNGIDO] 31号発行
広報発送費	2,200,000	2,100,000	広報封入封緘、郵送料
学校助成金	1,000,000	1,100,000	京大特別講座助成他
班活動奨励金	1,100,000	1,100,000	新設文化・体育班活動奨励金
慶弔費	150,000	150,000	
周年同窓会祝い金	460,000	460,000	5年30,000円、10年50,000円
各部会費	650,000	650,000	ゴルフコンペ、会費納入依頼再発代
予備費	948,493	813,024	
合計	11,302,493	11,013,024	

平成26年度 事業計画(案)

会員相互の親睦と教養の向上を図るとともに、母校に対する支援・協力の諸事業を行います。母校の要請により特別事業等に協力します。

○総務部会 定例総会・理事会の開催、役員会等は必要に応じて開催します。母校との連絡・協議を積極的に推進するとともに、各部会への協力、支援を行います。

○事業部会 総会時の講演会や懇親会の開催、各学年同窓会への協力、ゴルフ大会等交流会の開催を通じて同窓会活動の活性化に努めます。また、学校後援会活動、文化班、体育班への奨励に努めます。

○広報部会 母校の情報発信、同窓生の交流を図るため、年1回ではありますが、同窓会報「JUNGIDO」を発行します。充実した紙面作りに努力します。

ホームページアドレス
<http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>

メールアドレス
zeze-h-dousokai@poem.ocn.ne.jp

差引現在残高 1,695,674 (10,765,456-9,069,782) (次年度へ繰り越し)

特別会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	530,670	
寄付金	53,166	昭28東卒60周年
利息	87	
合計	583,923	

《支出の部》 残高証明手数料 315

差引現在残高 583,608 (次年度へ繰り越し)

◆同窓会財産目録 (H26.2.28現在)

I 一般会計及び会費会計 合計

◇郵便局	◇滋賀銀行		
定額貯金 1口 6,022,000円	本店 普通預金 152,213円		
郵便振替 1口 2,719,024円	膳所支店 普通預金 1,377,277円		
郵便貯金 1口 1,034,258円			
◇関西アーバン銀行 びわこ営業部 普通預金 473,410円			
◇事務室現金 58,492円	計 11,836,674円		

II 特別会計

◇滋賀銀行 膳所支店 普通預金 583,608円	計 583,608円
--------------------------	------------

III 名簿会計

◇滋賀銀行 膳所支店 定期預金 2,500,000円	
膳所支店 普通預金 4,627,034円	計 7,127,034円

同窓会役員(平成25年~26年度)

会長	浅田 幸作 昭和33年(膳6)	部会長(総務)	東郷 重明 昭和42年(膳15)
副会長	松村 文夫 昭和36年(膳9)	同(事業)	山本 勝義 昭和48年(膳21)
同	大崎 悦男 昭和40年(膳13)	同(広報)	山田 勲 昭和38年(膳11)
同	護法 良憲 昭和46年(膳19)	顧問	今市 信夫 昭和28年(東1)
会計	鈴木 勝博 昭和37年(膳10)	同	小西 英太郎 昭和32年(膳5)
監事	真野 義一 昭和33年(膳6)	幹事	奥村 弘史 昭和48年(膳21)
監事	林 典子 昭和53年(膳26)	同	坂下 覚 昭和56年(膳29)

第62回卒業式



平成26年3月1日(土)、春の息吹が少し感じられるなか、本校体育館に於いて第62回卒業証書授与式が挙行された。将来への希望を胸に、普通科396名、理数科39名、計435名の生徒が、新たに膳所高等学校を巣立った。

式典は、元校長の西岡宏堂先生、大崎悦男先生、成田政隆県議会議員、浅田幸作同窓会会長、今市伸夫顧問、東郷重明総務部会長、父母教師の会の大橋和仁会長、木村史子、鈴木敬、両副会長を来賓に迎え、在校生(2年生全員、1年生各クラス代表2名)、教職員、多くの保護者の出席のもと、厳粛な雰囲気の中で開催された。

卒業証書は、各クラスごとに担任が卒業生を呼名した後、淵田豊朗校長からクラス代表に手渡された。淵田校長は、式辞の中で、卒業生に期待することとして、「未知のことに挑戦する心を持ち続けること。」「自分とは違う考えや意見を持つ人と積極的に対話すること。」「自らの行動に責任を持つ良き市民になること。」「この3つを挙げられた。そしてこれら3つのことの根本には、人間だけが持つ想像力というものを豊かにすることが大切だと話された。

「卒業生の言葉」では、代表の三品秀祐さんと社納千聖さんが、3年間の高校生活の思い出や復興への思い、そして支えてくれた家族への感謝を語った。

その後、卒業生は、井上尚子さんの伴奏のもと全員で「旅立ちの日に」を合唱し、大きな拍手で包まれながら体育館を後にした。

また、これに先立ち、2月28日には、同窓会入会式が行われた。同窓会入会式では浅田幸作会長が卒業生に、はなむけとして「自強不息」という言葉を贈られ、常に努力することの大切さを話された。卒業生を代表して今村大智さんが同窓会入会の言葉を述べ、東郷重明総務部会長から同窓会の活動等について説明がなされた。

卒業生のみならずこれから社会に出て、活躍されることを祈念しています。

班活動報告

2012年度 全国レベルの大会結果

報道部

○放送班
NHK杯高校放送コンテスト
奨励賞 山本温実 鈴木真麗

体育部

○ボート班
高校総体 シングルスカル 準決勝3位 目片康介
団体 シングルスカル 準決勝4位 目片康介
全国選抜 シングルスカル 8位 北村綾香

ヨット班

高校総体 総合12位(62チーム参加)
持田大輝 小松賢司 高木 誠 高橋裕人
団体 高嶋桃花 澤田明莉 八田菜津子 大西幾月

陸上競技班

高校総体 男子棒高跳出場 澤 薫
全国選抜陸上 三段跳出場 刈谷 梓

文化部

○英語班
全国高等生英語ディベート大会 48位
飯田結湖 田中祐衣 山元千早 江口郁美
駒井咲希

合唱班

音楽アンサンブルコンテスト 銅賞受賞19位
恒松愛奏 森理紗子 林 萌花 福留千映
都賀千鶴

かるた班

高校総文祭 出場
野口大輔 棚橋輝蘭南 飯野菜穂子
三ツ星真希 長尾知香
高校小倉百人一首かるた選手権大会 出場
宮本真由香 石富千瑞 野口大輔 山本拓佳
國田徳里 飯野菜穂子 三ツ星真希
長尾知香

書道班

高校総文祭 出場 廣瀬 茜
安芸全国書展高校生大会
安芸市長賞 廣瀬 茜
書道美術鑑賞 長谷川伽紅

美術班

優秀賞 原 千夏
近江神宮全国献書大会
近江八幡市長賞 社納 千聖
東近江市市長賞 原 千夏
東近江市市長賞 青山晴菜 山田亜友美

物理地学班

高校総文祭 油絵作品出品 辻明香里
文化連盟賞
濱下正邦 井上涼平 河原直輝 宮治耕太郎
日本学生科学賞 全国入選3等
麻生大聖 他7名

文芸班

高校総文祭 作品参加 芝田玖弥 吉野悠紀美
弁論班
文化連盟賞
大西柊一
全国中学・高校ディベート選手権 ベスト16
鈴木慎吾 西川峻登 青木一将 松田 将
宮内優綺

サクサク! 主要大学合格者数

(国立大学)		(公立大学)		(私立大学)		(その他)	
北海道大	6名	岡山大	3名	京都外大	4名	防衛医科大学校	1名
東北大	3名	広島大	6名	京都産業大	10名	水産大学校	1名
千葉大	2名	愛媛大	2名	京都女子大	13名		
東京海洋大	2名	九州大	6名	京都薬大	18名		
お茶の水女子大	2名			同志社大	210名		
東京大	4名			同志社女子大	15名		
横浜国立大	3名			佛光大	9名		
金沢大	3名			立命館大	279名		
福井大	4名			龍谷大	31名		
信州大	2名			大阪医大	4名		
岐阜大	5名			大阪薬大	5名		
静岡大	3名			関西大	63名		
名古屋大	5名			関西外大	5名		
名古屋工大	3名			近畿大	33名		
三重大	8名			摂南大	9名		
滋賀大	9名			関西学院大	22名		
滋賀医大	10名			神戸薬大	4名		
京都大	48名			武庫川女子大	7名		
京都教育大	7名						
京都工芸繊維大	18名						
大阪大	35名						
神戸大	33名						
奈良女子大	7名						

編集後記

JUNGI DO 31号を同窓の皆様のお手元にお届けいたします。沢山の投稿・寄稿戴き有難うございました。限られた紙面のため、文字が小さくなり少々読みづらくなってしまいました。お詫びいたします。

自分の卒業から47年後に、本会から母校の卒業式に参加しました。ほぼ半世紀後の後輩の卒業式でした。後輩たちは孫のようにでした。自分の式を思い出すとともに、真摯で素直な後輩たちの姿に、感激、感動しました。本会に435名の方に入会していただきました。卒業された皆さんに本紙を読んでいただいているでしょうか。皆さんの今後の健康・幸多かれと祈っています。(S)



- 上野滋子 (東2) ・ 松村暢江 (膳10) ・ 山田 勲 (膳11)
- 東郷重明 (膳15) ・ 卯田重子 (膳16) ・ 藤原陽子 (膳16)
- 岡澤則子 (膳26) ・ 堀井美香 (膳33) ・ 奥村弘史 (総務)
- 井上正雄 (総務) ・ 小竹朋子 (総務)